第５章

地域福祉に関わるうえでの共通視点

第５章では、住民懇談会や高校生・大学生の意見交換会を基にまとめた地域福祉に関わるあらゆる関係者が、「地域福祉に関わるうえでの共通する視点」について説明をしています。

内容

１　共通視点の策定にあたって
２　地域福祉に関わるうえでの共通視点
３　住民懇談会、高校生・大学生意見交換会

第5章

地域福祉に関わるうえでの共通視点

1 共通視点の策定にあたって

地域福祉計画は、社会福祉法第107条に基づいて行政が策定します。地域福祉推進の主体である地域住民等の参加を得て、地域生活課題を明らかにするとともに、その解決のために必要となる施策の内容や量、体制等について、庁内関係部局はもとより、多様な関係機関や専門職も含めて協議の上、目標を設定し、計画的に整備していくことを内容とするものです。

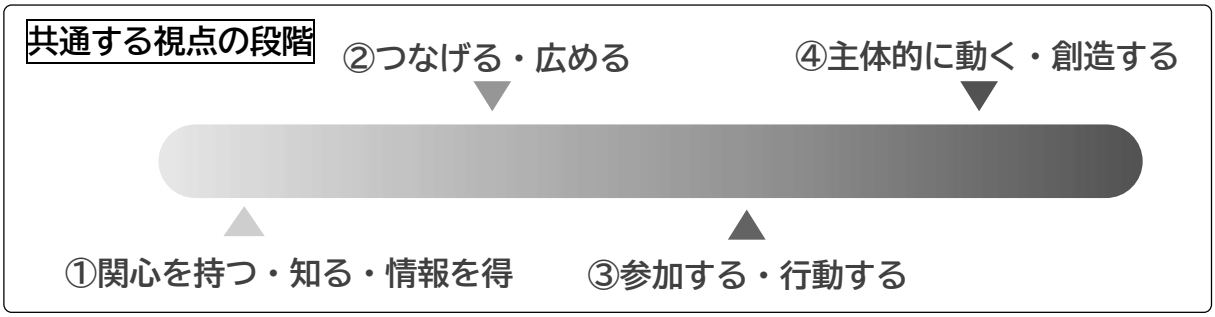
一方、地域福祉活動計画は、社会福祉法第109条の規定に基づく民間組織である社会福祉協議会が活動計画として策定するものであり、住民、地域において社会福祉に関する活動を行うもの、社会福祉を目的とする事業（福祉サービス）を経営するものが相互協力して策定する、地域福祉の推進を目的とした住民主体の民間の活動・行動計画です。

そのため、住民や区長、民生委員・児童委員、高齢者クラブ、ボランティア・市民活動者、当事者組織、市民活動団体（ＮＰＯ）、社会福祉法人、福祉施設、事業所、協同組合、企業・商店、大学等の研究機関、保健・医療、教育、司法その他福祉以外の分野も含めた地域のあらゆる関係者とともにつくり、ともに推進していく必要があります。

そこで、住民をはじめ、地域の関係者が地域福祉に関わるうえでの共通視点を、住民等懇談会や高校生・大学生との意見交換会を通じてまとめました。

2 地域福祉に関わるうえでの共通視点

住民（介護が必要な高齢者、障がいのある人、外国籍住民やその他配慮が必要な人も含む）や地域福祉に関わる多様な主体は、それぞれの状況や環境、意識などにより、地域福祉に関わる段階が違います。そこで本計画では、段階に合わせた４つの共通する視点を示しています。



それぞれの立場、それぞれの状況に応じて地域福祉に関わることが大切です。

共通視点 1　関心を持つ・知る・情報を得る

・地域や福祉、ボランティアなどに関心を持ち、情報を得る。
・地域生活課題や地域の取組を知る。

共通視点 2　つなげる・広める

・困りごとを支援機関などにつなげる。
・得た情報を知り合い等へ広める。

共通視点 3　参加する・行動する

・地域の活動に参加する。
・声かけ、活動の手伝い、手助けなど行動する。

共通視点 4　主体的に動く・創造する

・活動に参加し、主体的に活動する。
・課題の解決に向けて、新たな活動をはじめたり、仕組みをつくる。

地域福祉に関わる様々な立場

地域福祉には、住民（介護が必要な高齢者、障がいのある人、外国籍住民やその他配慮が必要な人も含む）や区長、民生委員・児童委員、高齢者クラブ、ボランティア・市民活動者、当事者組織、市民活動団体（ＮＰＯ）、社会福祉法人、福祉施設、事業所、協同組合、企業・商店、大学等の研究機関、保健・医療、教育、司法その他福祉以外の分野も含めた地域のあらゆる立場の人が関わります。

住民

住民（介護が必要な高齢者、障がいのある人、外国籍住民やその他配慮が必要な人も含む）

地域の団体

区長、民生委員・児童委員、高齢者クラブ、ボランティア・市民活動者、当事者組織、市民活動団体（ＮＰＯ）

専門職

社会福祉法人、福祉施設

企業等あらゆる関係者

事業所、協同組合、企業・商店、大学等の研究機関、保健・医療、教育、司法その他福祉以外の分野も含めた地域のあらゆる関係者

社協

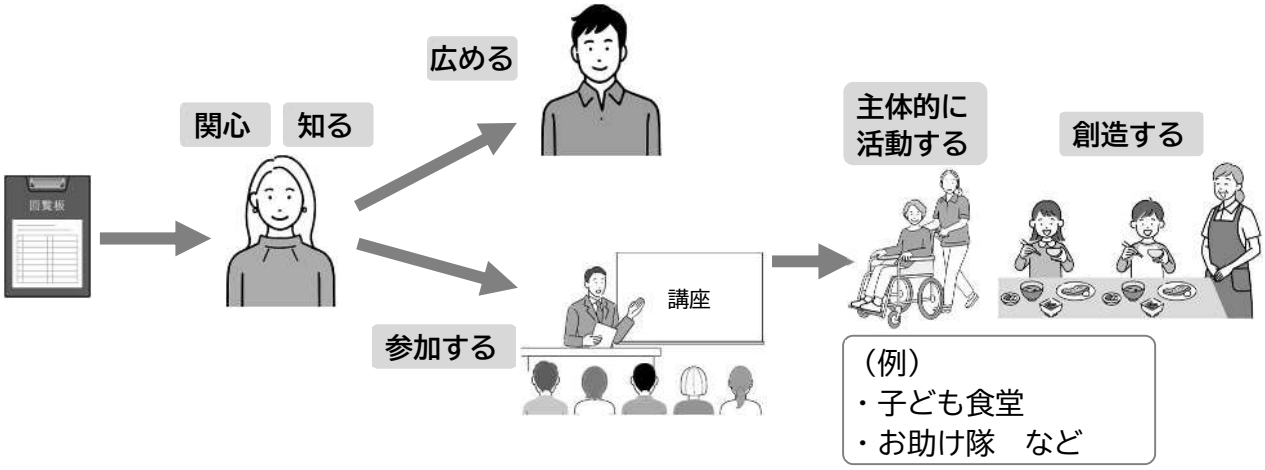
社会福祉協議会（福祉センター、支所、出張所）

行政

市役所、支所

事例

【 知る・関心を持つことで主体的に動く・創造するに至った事例】



Ａさんは就職の関係で40年前に豊田市に引越して以来、**仕事人間で、地域とのつながりはほとんどありませんでした。**定年退職後、**地域の回覧で「とよた市民福祉大学」のチラシを見て、参加することにしました。講義を聴く中で、地域に困って助けを求めている人がいること。そして、その人たちの多くは、周りに頼る相手もおらず、困っている声を発することができないということを知りました。**

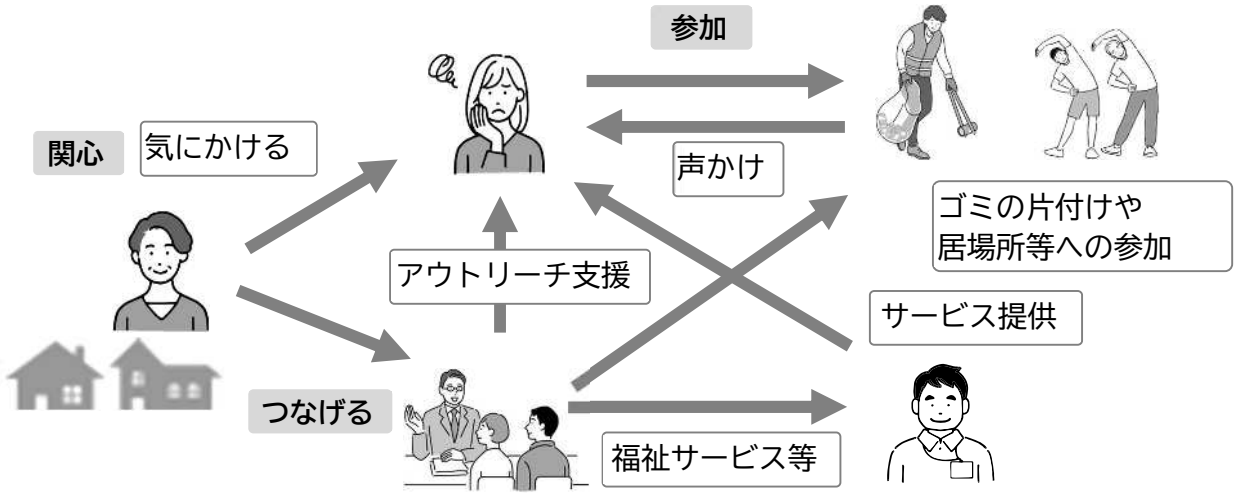
Ａさんは、**ボランティア講座修了後、**区長や民生委員、地域包括支援センター、社協などから話を聞き、自分の地域でも同じような困りごとがあることを知りました。そこで身近な仲間たちや地域包括支援センター、社協、行政等と相談し、**自分たちが地域の困りごとを解決する「お助け隊」を発足することにしました。**発足に向けて、準備を役割分担しながら進めると同時に、地域住民に対して活動メンバーを募集しました。その結果、20名のメンバーが集まりました。

お助け隊の主な活動は、家庭内の清掃や庭木の剪定等ですが、**自分達だけで解決できない依頼は、区長や社協、行政等に相談して、支援につなげるなどしています。**また、お助け隊のPRも行っており、自治区の回覧等を通して、活動への参加や協力、依頼したいことの募集をしています。**元々は依頼する立場だった人が、Ａさんたちに助けてもらった経験から、「自分も人の役に立ちたい」と考え、お助け隊に加入した人もいます。**

Ａさん達は、活動が終わった時に、**依頼者から「ありがとう」と言ってもらえることで達成感を感じること、一緒に活動をしたメンバーと楽しく打ち上げ会をすること、また、これまで知らなかった近所の人と頻繁に話をするようになり、信頼関係が生まれたことで活動の意義を感じています。**

※本事例は、事実を基に構成しています。

【 困りごとを支援機関につなぎ、適切なサービスにつながった事例 】



B さんは、近所の男性が生活に困っていることに気づきました。男性はいつも汚れた服を着ており、家は生活ごみであふれていました。**「このままでは心配だ」と、ご近所や自治区等と相談して、社協に連絡することにしました。**

連絡を受けた**社協の生活困窮者自立支援事業の担当職員は、民生委員やアパートの管理会社と一緒に男性の自宅を訪ねました**が、不在で面会することはできませんでした。**4 回目の訪問の際に、室内からかすかなうめき声が聞こえたため、中に入ると、極度の脱水症状になって自宅で倒れている男性を発見、病院へ緊急搬送しました。**男性はそのまま 2 週間入院することになりました。

「たとえ退院しても、このままでは自立した生活が送れない」と、男性の今後を心配した専門職等（社協生活困窮者自立支援担当者、地域包括支援センター、区長、民生委員、医療ソーシャルワーカー）は、「支援会議」を開催し、生活改善のために話し合いました。

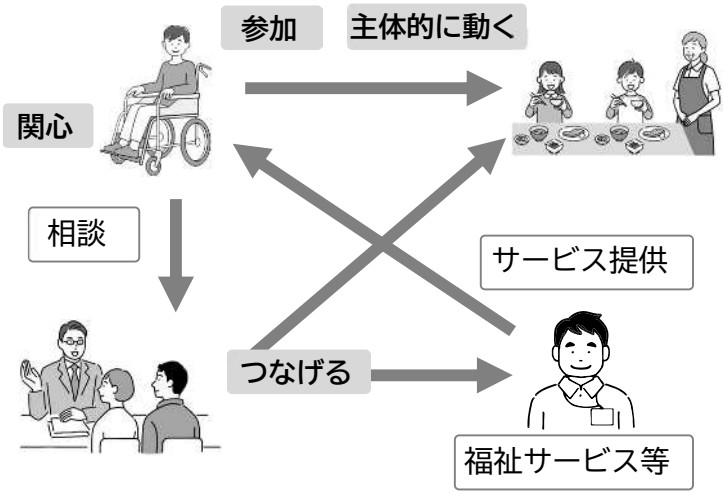
その結果、**まずは退院日に合わせて自宅のゴミを片付けることにしました。しかし、男性の自宅のごみの量は、会議に集まったメンバーだけでは対応できないほどでした。そこで、地域住民や地元の大学生等にも協力を依頼し、地域皆で男性の自宅を清掃することにしました。**

関係者で、協力者募集のチラシ自治区での回覧や、大学キャンパス内掲示を依頼しました。その結果、片付け当日には、多くの方が男性の自宅に集まり、ごみの搬出に協力してくれました。当日の協力者の中には、B さんの姿もありました。

その後も**地域の住民の方々が地域ふれあいサロンなどの居場所や地域活動に B さんを誘ってくれ、B さんも楽しく地域活動に参加されています。**

※本事例は、事実を基に構成しています。

【 役割を持つことで、やりがいとつながりに至った事例 】



地域共生社会は、制度・分野の枠や「支える側」と「支えられる側」という従来の関係を超えて、住み慣れた地域において、人と人、人と社会がつながり、すべての住民が、障がいの有無にかかわらず尊厳のある本人らしい生活を継続することができるよう、社会全体で支え合いながら、共に地域を創っていくことを目指すものです。

障がいのある人や配慮が必要な人なども含めて社会参加することで、役割や生きがいにつながります。

C さんは**ひとり暮らしの50代男性**です。**脳梗塞になり、下肢機能障がいで車いすで生活**しています。**以前は、調理人として働いていましたが、車いす生活になり、仕事もやめてしまいました。時間を持て余し、ひとり暮らしの淋しさからアルコール依存症に陥ってしまい、自宅で倒れているところを近所の人に発見され緊急搬送されました。**病院での治療とリハビリを経て、アパートに戻りました。それからは、今後の生活を障がい相談支援専門員に相談し、ヘルパーを利用して生活を整えることとしました。

アルコール依存症と向き合いながら生活し、体力的にも回復をしてきた C さんは、**障がい相談支援専門員に「料理人の経験を活かし、何かできることはないか」と相談したところ、コミュニティーソーシャルワーカー（CSW）に相談することを提案され、一緒に相談してみることにしました。**

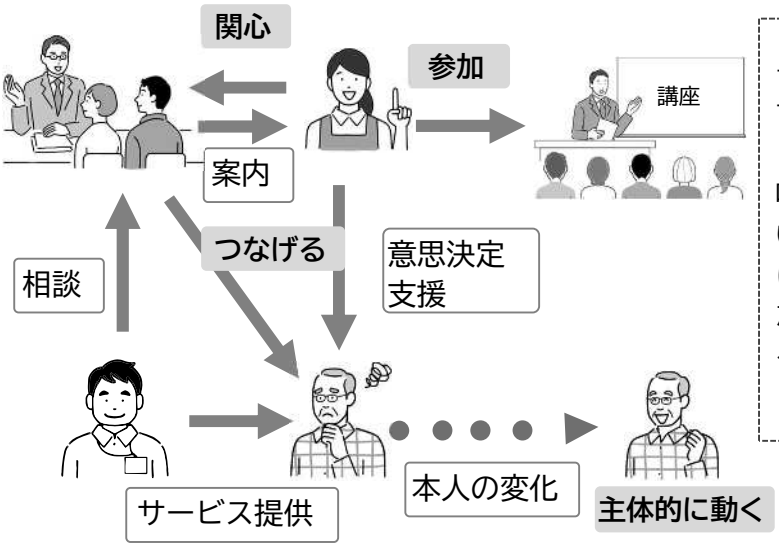
CSW から近くの「子ども食堂」を紹介され、C さんはボランティアとして子ども食堂に参加しました。子ども食堂で子どもたちや他のボランティアと一緒に料理をしながらふれあうことや、「ありがとう。助かるよ。」とお礼を言われる嬉しさを感じ、月 1 回のボランティア活動を継続しています。

C さんは、**ボランティア活動をきっかけに、「他にも自分のできることで役に立つことをしていきたい」という思いが強くなり、今では、**「使用済み切手等整理作業」など**様々なボランティア活動をしています。**

C さんは、地域に役に立っていることや人とのつながりを実感し、ボランティア活動を通じて様々な活動・活躍をしています。

※本事例は、事実を基に構成しています。

【 意思決定フォロワーが関ることで、配慮が必要な人の自己実現・社会参加につながった事例 】



意思決定フォロワーは、社協が開催する「意思決定フォロワー講座」を修了した市民ボランティアです。

フォロワーとは「支持者」という意味で、本人の意思決定を応援する人ということを示しています。電話や訪問にて、本人自らの生活をどのようにしたいかを決めることに対して、いろいろなお話を聞いたり、考えることに寄り添い、本人の意思を後押しします。

Dさんは、社協(後見支援センター)からのチラシの案内で、意思決定フォロワー講座を受講し、修了後登録をしました。

Eさんは**ひとり暮らしの50代女性で、知的障がい**があります。Eさんは今まで「●●しなさい」と指示されて生活してきたことにより、自分の意思を伝えることで、相手に嫌われるのではないかと不安を抱いていました。

Dさん(意思決定フォロワー)はEさんの自宅を定期的に訪問し、Eさんの意思を後押しすることで、下記のような効果がありました。

- **以前から頭痛に悩んでいたが、Dさん(フォロワー)と悩みを共有して、Dさん(フォロワー)が後押しをすることで、Eさんが手術することを医師に伝えることができた。**

→ **無事、手術を終え、頭が痛くなることなく生活できるようになった。**

- **事業者(職員)の話が早すぎて聞き取れない、理解できないことに悩んでいたが、Eさん(フォロワーDさん同席)、事業者、施設長との話し合いの中で、事業者に直接伝えることができた。**

→ **事業者(職員)もゆっくりと話してくれるようになった。Eさんも「もう一度、言ってほしい。」と言えるようになった。**

Eさんからは**「今は自分らしく生きられる。こんなに幸せになるなんて思わなかった。」**との言葉がありました。

その後、Eさんは、**自分の意思(意見)を言えるようになり、様々な活動に積極的に参加されるようになっています。**

Dさんからは、**「自分の見方が変わった。今までは自分の価値観で『こうするべき』と決めていたが、固定概念を取り払い、多角的に考えることができるようになった。」、「Eさんの笑顔が増え、楽しそうにしていることが自分(Dさん)もうれしい。」**との言葉がありました。

※本事例は、事実を基に構成しています。

3 住民懇談会、高校生・大学生意見交換会

（1） 住民等懇談会

① 社会福祉協議会　支所推進委員会

地区	時期	参加人数
旭地区	2025年６月12日	８人
足助地区	2025年６月16日	６人
小原地区	2025年６月20日	６人
藤岡地区	2025年６月23日	７人
下山地区	2025年６月25日	８人
稲武地区	2025年６月27日	５人

足助地区の様子

下山地区の様子

藤岡地区の様子

② 地区コミュニティ会議福祉部会長情報交換会

地区	時期	参加人数
全地区（28地区）	2025年６月７日	21人

（２） 高校生・大学生意見交換会

時期	参加人数
2024年11月16日	８人

【 地域福祉に関わるうえで必要な視点［出された意見等（抜粋）］ 】

・参加する会議で、まずは**知ること**からはじめたい。

・回覧等で配布される**情報に目を通す**こと、**情報を得る**こと。

・様々な**知識・情報を持っている**こと。そうすることで選択の幅が拡がる。

・小さなことでも良いから、自分のできる範囲でできることを行う。そういった意識を持つことで**関心を持つ**ことができる。

・身近な課題・話題だと**関心を持てる**。そういった身近なことを中心に**周知**を図ること。**知ることで関心が増える**。

・ボランティア活動等を行うには、時間的余裕ややりたいことが見つかるなどのタイミングがある。すぐには難しい。得た**情報を広める**ぐらいならできる。

・**得た情報を**家族や知人に**伝えることで情報が広がる**。そういった地道なことが大事。

・自分自身で何かすることは難しくても、市役所や社協、支援機関などに**つなげる**ことはできる。

・関係機関に**つなげることはできる**。その為には、関係機関を**知っておくことも必要**。

・様々な場や研修に**参加する**こと。参加することで次へのきっかけになる。

・できることは少ないかもしれないが、**声掛けは必要**。**ちょっとした手助け**やつなぐことならできる。
・主体的には動けないかもしれないが、**手伝うことはできる**。そういった中心となる人を支えることならできる人は多い。
・まずは参加。参加を通じて**主体性**が備わるかもしれない。
・お手伝いなどの関わりや、役割を通しながら**主体的に動く**につながることもある。
・**主体的に動く**ことで、**新たな創造**につながる。
・それぞれに状況や環境、意識が違う。それぞれにステージがあると思う。いきなり行動したり、主体的に活動する人もいれば、まずは知ることや関心を持つことからの人もいる。それぞれに合わせた段階が必要。**最終的には自分で創り出すこと**が理想。